

会 議 結 果 の お 知 ら せ

第2回宮古市林業振興ビジョン策定委員会を次のとおり開催しました。

令和7年1月9日

宮古市林業振興ビジョン策定委員会

1 開催日時

令和6年12月23日(月)10:00～12:00

2 開催場所

市民交流センター 会議室3

3 議題

(1) 宮古市林業振興ビジョン案について

(2) その他

4 会議の概要

別添のとおり

5 問い合わせ先

産業振興部 農林課林政係(TEL0193-68-9097)

第2回宮古市林業振興ビジョン策定委員会

1 出席者(8名)

日下紀子、田島大、中居克広、伊香立司、涌田幸栄、齋藤眞琴、
三ヶ尻真浩、伊藤嘉奈子

2 欠席者(2名)

大塚生美、阿部剛

3 事務局出席者(4名)

産業振興部長 岩間 健、
産業振興部農林課長 裊岩邦行、産業振興部農林課林政係長 田屋研二
同係副主幹 花輪政文

4 傍聴者

なし

5 議事等

(1) 宮古市林業振興ビジョン案について

宮古市産業立市林業振興ビジョン案について、事務局から説明した。

(2) その他

宮古市林業振興ビジョン意見提出用紙の集約と今後のスケジュールについて、事務局から説明した。

質疑応答内容

質問・意見	回答
<p>【 議題(1) 】 「宮古市林業振興ビジョン案について」</p> <p>○自伐型林業の支援について <委員> (質問) 自ら山を持たないで、ほかの方の山の経営管理をしていく、持続的な林業を進めていく形の林業が「自伐型林業」であるのに対し、自らの山を自らの手で維持経営をしている方は「自伐林家」と認識しているが、自伐林家への支援は想定しているか。</p> <p>自伐型林業者に対する間伐の補助金がない。自伐型林業で計画を進めていって、市としては完成形をどういう形で見ているのか。</p> <p>○経営管理権集積計画作成の委託について <委員> (意見) 基本事業の方向性の記載について、計画的な森林整備を推進するための手法・文言を追加した方がよい。 「経営管理権集積計画の作成を委託し、『それに基づく経営管理を林業経営体に委託をすることによって』計画的な森林整備を推進します」等、手法の追加が必要と考える。</p> <p>○森林経営管理制度について <委員> (意見) 意向調査をしたものを、森林整備の方になるべく早く移行していただきたい。</p>	<p>(事務局) 自分で山を持っていなくても、相手から引き継いで、あるいは管理を依頼されてやれる方については、経営計画から一緒になって最終的にその山の管理をどうするかまで専門的な知識をもった上で実施していただきたい、というのが最終的な目標である。 自伐型林業を行おうとしている方々が、経営計画を立てられるような支援をして参りたい。 経営計画を立てる中で、宮古の山を守っていくというところを核としたいため、自伐林家への支援は想定していない。</p> <p>(事務局) 森林環境譲与税の財源を活用して、何らかの手立てをしていくことを検討している。</p> <p>(事務局) 調整する。</p> <p>(事務局) 意向調査の仕方・対象、集積計画の対象等について市の方針を改めて整備し</p>

<p><委員> (質問) 経営管理権集積計画と経営管理実施権配分計画は同じものか</p> <p>○いわて林業アカデミー受講支援について</p> <p><委員> (質問) 現段階で具体的にどのような形の支援を考えているか。</p> <p><委員> (意見) 国の事業の就業支援準備金制度と重複するが、この補助金は毎年上限があるため、不足分の補填であればよいと考える。</p> <p>○獣害の防除について</p> <p><委員> (意見) 森林づくり事業の主な取組内容の記載として森林病虫害の防除とあるが、ぜひ「獣害(の防除)」を追加いただきたい。</p> <p>○地域おこし協力隊について</p> <p><委員> (意見) 担い手確保対策「地方の移住に関心のある首都圏在住者」(＝地域おこし協力隊)について、ぜひ、良い人材を見つけていただきたい。他の自治体では、林業に本当に合っているのかなと疑問に思う方も来ているようだ。その辺の見極めをお願いしたい。</p>	<p>ている状態である。方針が確定したら共有してまいりたい。</p> <p><委員> (説明)</p> <p>(事務局) 現行の市の単独事業の担い手の新規就業者支12万5000円/月と組み合わせて、受講料以外の生活支援をしたいと考えている。</p> <p>(事務局) 調製する。 就業前に(無所属の状態)受講する方への、受講中の支援をしてまいりたい。</p> <p>(事務局) 承知。</p> <p>(事務局) 面接だけでの見極めはなかなか難しい。</p> <p>(事務局) 応募者の方の本気度には個人差があると感じている。個人的には、皆さん(林業関係者)に審査員になっていただくのも手法の一つと考える。</p> <p>(事務局) 市役所の中で仕事をさせるということではなくて、現場で(森林組合や林家で)その方々を受け入れて、そのテーマ・目的に沿った人材を育成するというのをやりたいと考えている。</p>
--	--

<p>○しいたけ生産・目標について</p> <p><委員> (意見)</p> <p>前回の委員会で、検証として、生産量の増加は見込めない、生産者の減少、高齢もあって、生産量は維持できれば良いという意見をしたが、生産者の協力を得て、これから新規参入者を何とか増やせばいいなどは考えているので、やはり「維持」というよりは、目標としては「拡大」としたほうがよいと考えるがいかがか。</p>	<p>(事務局)</p> <p>計画としては、拡大の方が良いと考える。担い手の関係でも、新規就業者の募集をかけており、シイタケの生産者を増やしていこうというのがある。方向性としては、拡大としている。</p> <p>なお、現状として生産されている方々がなかなか難しいというの、意見としてはそのとおりだと考える。</p>
<p>○ナラに変わるしいたけホダ木について</p> <p><委員> (質問・意見)</p> <p>ナラに変わる原木として、アカシデ等を林業試験場等で計画していないか。クヌギは生産地としては合っていないが、そういった研究はしていないのか。</p> <p>原木が確保できないとしいたけの生産ができないため、その辺を、市役所だけではなく、県の方でも推進していただきたい。</p>	<p><委員> (説明)</p> <p>シデの研究はしていないが、現在、クヌギの利用の可能性を探るということで、調査を初めてはいる。</p> <p>クヌギは、やはり樹皮が硬いので、水分が確保できない。通常の、当地方でコナラでやっているような感覚でやっても、上手にホダ化できないというのがあるのだと思う。</p> <p>なお、同じホダ木で比べたときに、芯材が少ないので発生量はクヌギの方が優れているという言い方をされるが、やはり硬いので、東北ではどうしてもそのホダ木にするのが難しい。技術的に水分条件からホダ化するのが難しいと言われている。</p>
<p>○公共物への地域材の利用拡大について</p> <p><委員> (意見)</p> <p>住宅着工数が年々減っているわけだが、地域材の需要を拡大促進するには、公共物への利用が大変有効と考える。公共物は一般住宅よりも大規模になるため、地域材の利用拡大のところに、「公共構造物への地域材の供給」を加えてはどうか。行政では、「公共物は木造で進めますよ」という一言があっても、よいのではないか。</p>	<p>(事務局)</p> <p>基本事業の方向に、「公共構造物への地域材の利用」を加える。</p>

<p>市では、担当課でそれぞれ公共物を計画するものと思うが、木の使い方とか、どういう木が地域にあるのかというのは、担当だけではわかりづらい部分があるものとする。</p> <p>木造建築アドバイザー派遣制度があり、市町村から県に申請、派遣されるアドバイザーから、地域材の所在、活用方法をアドバイスいただけるということのようだ。直接木材利用の推進に繋がるところと考える。ご検討を。</p> <p>○林業総生産額の目標値について <委員> (意見) 県全体の総生産額は、「林業産出額」について言えば、4分の3が素材生産量で残り4分の1がキノコ類である。今回の目標値で素材生産量がほぼ倍増としているので、おそらく林業総生産額は、倍増すべきではないか。</p> <p>○素材生産量の実績値について <田島> (意見) 平成30年から令和5年でここまで数量が落ちているが、関係者として肌感覚であるが、地域の在庫がここまで落ちている(落ちていた)のか疑問がある。</p> <p>○資料・人工林と天然林について <委員> (質問) ここでいう天然林は、人工林に対して非人工林を天然林と称しているのか。</p> <p><委員> (確認) 天然林は広葉樹だけではない。天然針葉樹、例えばアカマツ天然林も含めて天然林と称している。</p> <p>○Jクレジットについて <委員> (質問) Jクレジットを宮古市で取得して、それ</p>	<p>(事務局) 確かに違和感がある。若干の数字の変更をするかもしれないが、お任せいただきたい。あくまでも目標値なので、額と量とでスライド式で行った方がよいとかとは思いますが、他の数字も見ながら検討させていただきたい。</p> <p>(事務局) 県の資料から転載している。精査する。</p> <p>(事務局) 針葉樹に対する広葉樹と区分すると同様、人工林以外を天然林と表記している。</p> <p>(事務局) 上記表では、針葉樹と広葉樹の比率が人工林と天然林の比率に一致しない。針葉樹＝人工林ではない。針葉樹に人工林も含まれ、それ以外の要素もある。回答できるようにしておきます。</p>
---	---

<p>を財源にするということとはできるのか。宮古市の市有林がたくさんあるので、活用できないか。</p> <p>宮古市でも環境によい政策を行っている中、せつかく森林がたくさんあるのだから、プロジェクトに、このビジョンの中に入れた方がよいと最近考えた。</p> <p><委員> (意見)</p> <p>認定団体があり、そこに頼めば市町村有林でもJクレジットの対象森林にはできるようだ。ただし、Jクレジットを市有林で組んで認定をもらって森林整備をしようと思っても、(大変失礼であるが)担当の農林課のマンパワーが足りないことと、これから森林譲与税を使って森林を整備しようとするところと同じ内容のようなものが進んでいくのであれば、現実的に厳しいのではないかと、個人的に考える。</p> <p><委員> (意見)</p> <p>Jクレジットには種類があるが、当件では、森林整備をすることによって、森林が吸収する二酸化炭素量をクレジットとして売るというものである。</p> <p>計画に基づいた森林整備をしていれば、クレジットが創出されるが、一方で主伐がその中に含まれていると、主伐自体がCO2放出と同じ扱いになるため、うまみ(意味)がない。</p> <p>主伐を含まない経営計画でプロジェクトを作って実施する方法もあると思うが、その申請の手続きであるとか、創出されたものは、毎年度、「今年はこのように管理をしたので〇tクレジットを発行できます」というモニタリングを行う必要があり、携わるマンパワーがやはりかなり大きく必要になってくる。</p> <p><委員> (意見)</p> <p>カラマツを計画的に伐採、販売すればよいのではないか。</p>	<p><委員> (回答)</p> <p>できるかできないか言えば、できるのだが、できるようにするには、膨大な事務手続きが発生する。おそらく市の事務負担がかなり大きくなる。</p> <p>その事務を請け負うところはあるが、売り上げの半分を請求される。事務手続きを楽にすると収入が少なくなるのでそこをどう考えるかである。</p> <p>(事務局)</p> <p>本来であれば植林から始めるのが一番よいという話は聞いたが、すでに伐期が来ているところについては、うまみがない。出すだけ。伐出後に植林するのであればよいのだが、まとまった面積をやらなければならない。</p> <p>本市には膨大な森林面積があるが、ほとんどがもう伐期を迎えている。カラマツもそのとおり。</p> <p>(事務局)</p> <p>なかなか販路の確保が難しい。</p>
--	---

○林業のPRについて

<伊藤委員> (意見)

担い手の確保が課題だと考える。「林業はこういう仕事をしているよ」というのを周知できるとよいと考える。

【 議題(2)「その他」について 】

○林業の国家試験 「林業技能検定」について

<委員> (意見)

林業の国家資格の認定制度が創設された。今年度は九州地方から始まり、来年度は東北地方を対象に認定試験が始まる。

先ほど担い手確保の関係で受講支援の話があったが、国家試験の受験料が結構高いようなので支援を検討いただきたい。

資格を取得すれば、林業者の地位の向上、給料的な部分でも優遇されることが想定される。事業者としても、有資格者がいれば体その地位が公に認められることが想定される。

(事務局)

農業の方では水稲、園芸、畜産の担い手の方々を15分の動画で、「こういうふうに仕事している」ということで、ホームページに掲載している。

林業の方でも同様にできないかと考えている。仕事の内容がわかるような素材を作ってみたいと考えている。

○意見集約と今後のスケジュールについて

(事務局) (説明)

配付してある意見提出用紙について、年内に提出いただきたい。

会議としては、本日を最後にさせていただいて、今日の意見、この後いただく意見をもって最終案を作成し、年明けに郵便で送付する。

(事務局)

こちらでも調べてまいりたい。